



# DXを駆使した災害査定

～建設DXフル活用により、災害査定が激変！～

交通基盤部 下田土木事務所 工事2課



近年、豪雨の頻発により、  
施設（道路、河川、砂防等）被害が急増！

国交省水管理保全局による災害査定が増加！

R4.8 松崎町雲見「雲見入谷竹カラシ」急傾斜

# 災害査定の現状（災害査定必携（R5.11）抜粋）

## ○査定現場での準備事例

- i 被災状況、地質等を確認するための設備（足場）

現地状況の確認の際に、崖下へ降りなければならぬ箇所、法面を上る必要がある箇所、河川の横断が必要な箇所等は、階段や足場を設置し、現地の状況を確認できるようにしておく。

**査定官が被災状況を確認するため、階段が必要！**



- ii 被災状況、地質等を確認するための設備（ステージ）

上部法面の被災状況をより近接して確認するために、足場を設置。

（応急工事施工業者等へ依頼）

**査定官が法面状況を確認するため、足場が必要！**

上部斜面に残存する不安定土塊の状況が確認できたため、不安定土塊に対して申請した「法枠＋アンカー工法」が採択された。



# 第4次査定の概要（（国）135号 東伊豆町白田）

全景



H=約100m

源頭部



W=約30m

擁壁裏側



査定時間30分で、被災状況、被災メカニズム及び復旧工法を査定官にどう説明？

L=約60m

国道135号

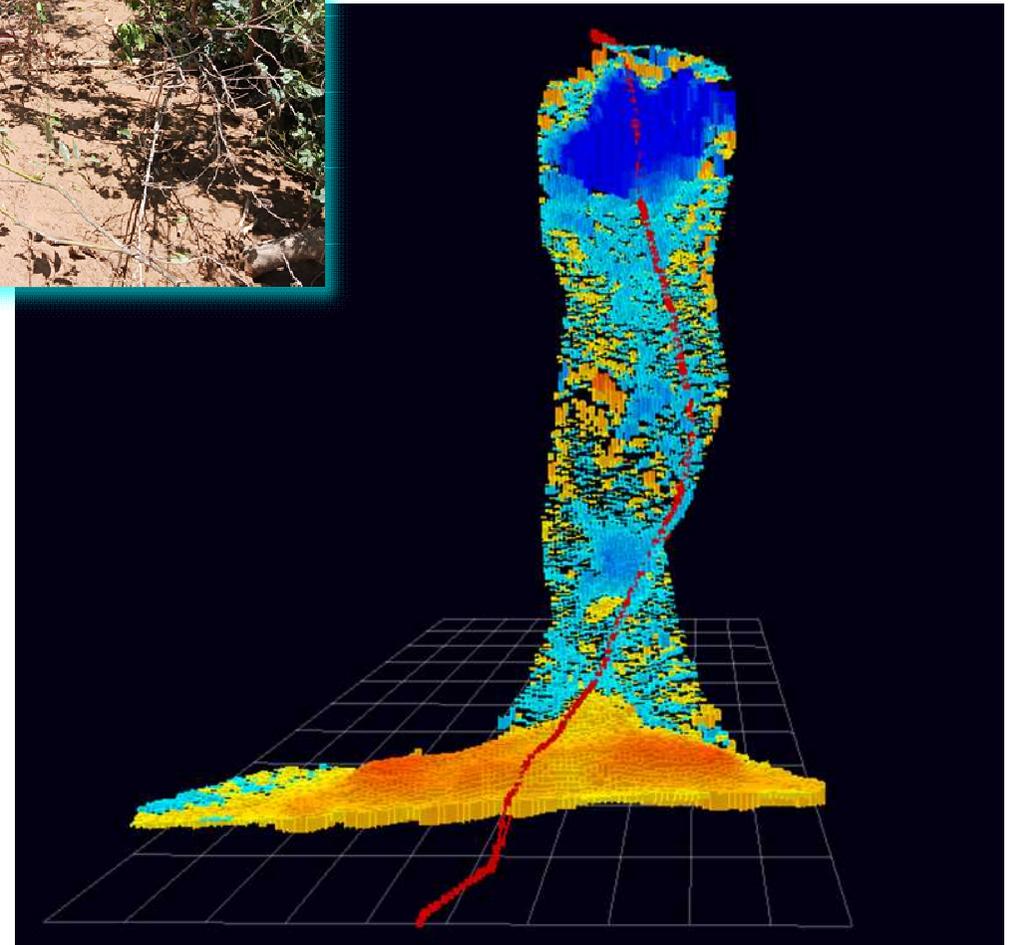
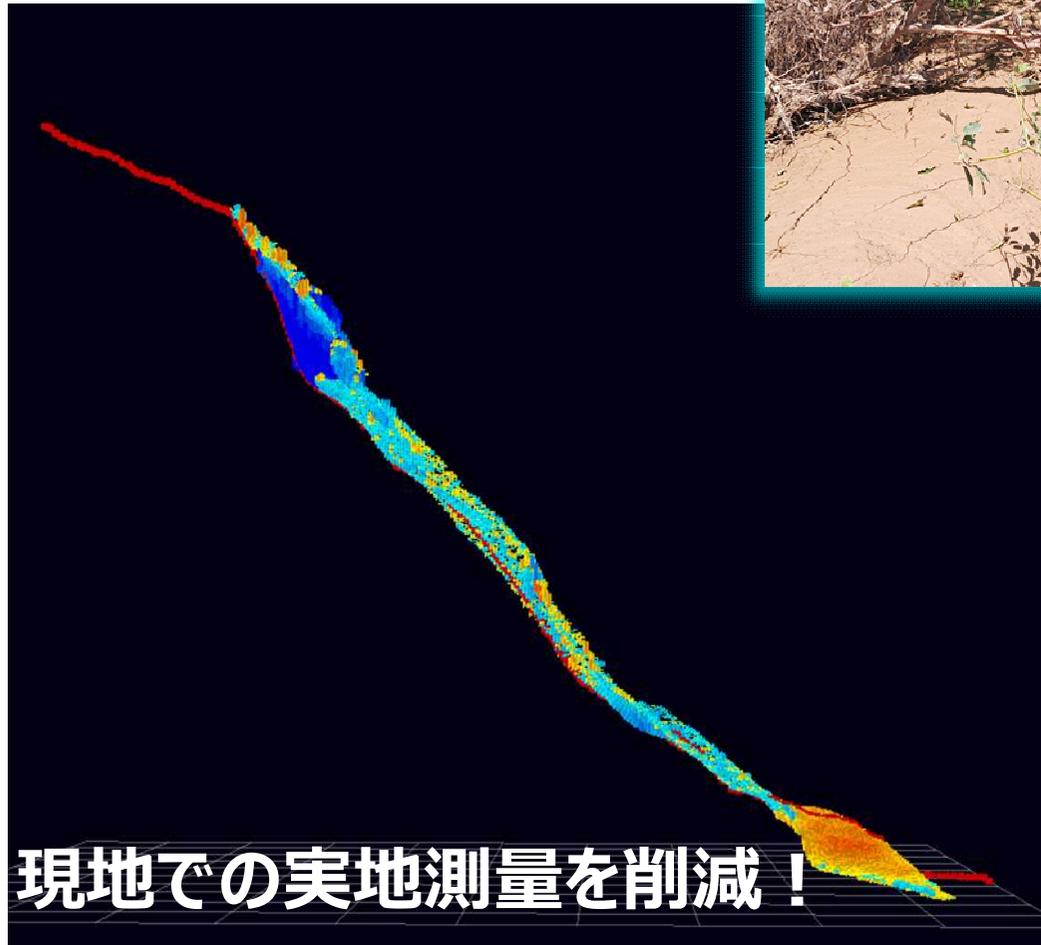


# ①崩壊土砂量の算出には・・・

横断図



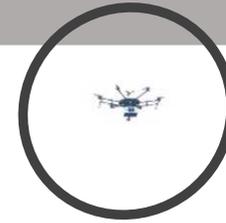
正面図



現地での実地測量を削減！

崩壊土砂量 約1,000m<sup>3</sup>

## ②被災メカニズムの説明には・・・



源頭部（湧水箇所）



ドローンの活用

### 崩壊の要因

- 過去の崩壊の落ち残りの不安定化
- 地下水位の上昇による湧水量の増加

# ③復旧工法について・・・（被災延長の決定）



# ③復旧工法について・・・（被災延長の決定）

3次元点群データの差分解析によりクラックを説明！

起点の根拠

終点の根拠

拡大図

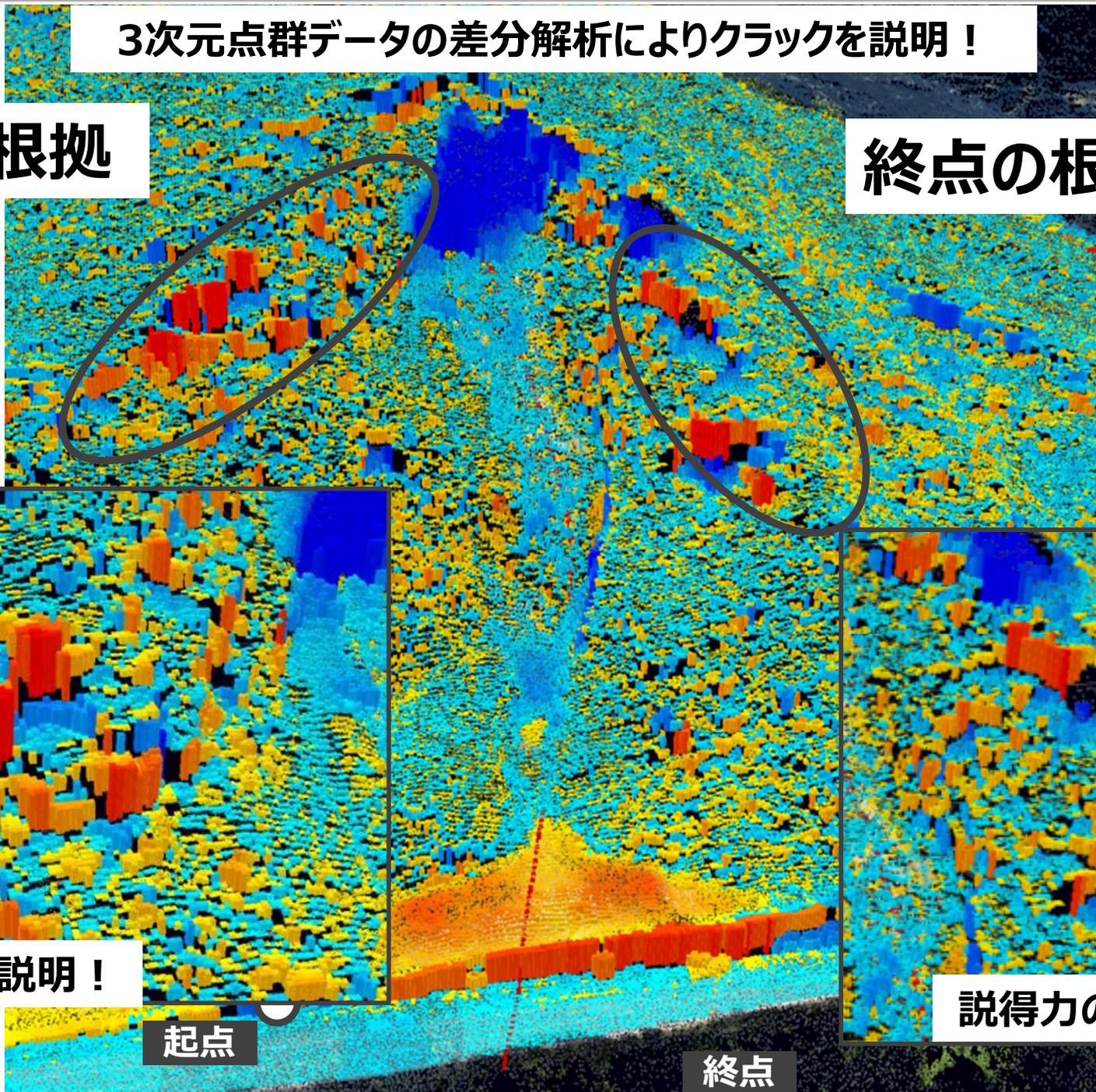
拡大図

説得力のある説明！

説得力のある説明！

起点

終点



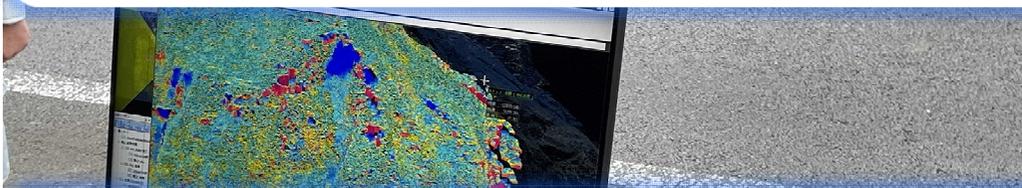
### 3.まとめ



**建設DXの活用で、査定の省力化・効率化へ！**



**災害復旧申請額約3億円は、満額認められた**



**建設DXは建設業界の担い手不足等に貢献！**

